

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270700323		
法人名	株式会社 翔里		
事業所名	グループホーム翔里		
所在地	長崎県平戸市津吉町1051		
自己評価作成日	令和3年2月12日	評価結果市町村受理日	令和3年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に生活しやすく、居心地が良いと思って頂ける様、声かけを行ったり居室でゆっくり読書や昼寝等自由に過ごして頂ける様見守っている。日勤帯はりハビリ体操、カルタ取り、ことわざ遊び等、1日1回は全員参加のレクリエーションが出来る様スタッフも心がけている。又、今年はコロナウイルス感染防止の為、ご家族との面会ができなかった為写真を送ったり、電話をして会話して頂いたりご家族とのふれ合える工夫も行った。利用者様一人ひとりの体調の変化にもスタッフ一同気を配り、迅速に対応するように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は大半が地元出身者で地域への愛着も深く、勤務年数も長く定着率も高いことから入居者と馴染みの関係ができており、家庭的な雰囲気の中で支援に取り組むことができています。ホーム内は職員が毎朝EM菌を使用した拭き掃除や掃除機掛け、モップ掛けで清掃するなど外回りも含めた清潔保持や感染症対策に力を入れて取り組んでおり、入居者・家族・職員それぞれにとって清潔で安心感のあるホームである。入居者支援では入浴支援に力を入れており、入浴以外の日は清拭・足浴・口腔ケアなどこまめな支援を行っている。提供する食事に関しても全て職員の手づくりで、ホーム菜園で収穫した季節の野菜等は入居者・家族にも美味しいと好評であり、食堂から聞こえる調理の音や漂う香りによって家庭的な雰囲気に溢れている。ホームには巡回図書館が定期的に訪問しており、読書好きの入居者の楽しみとなっているほか、近くには幼稚園・小学校・中学校があり、登下校時に入居者と子供達が笑顔で挨拶を交わす姿が見受けられる。同一敷地の建物内に系列の翔里第二グループホームがあり、緊急時対応・各種訓練実施・職場内研修など日頃より協力体制を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 壱番館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で理念など唱和している。又今日一日や心の法則等唱和している。職場の教養も読んでいます。	毎日の朝礼で会社が定めた心の法則『今日一日親切にしよう』『感謝しよう』『素直のなろう』『与えましょうそして感謝しましょう』を唱和し、職員への周知を図っている。また、ユニット独自の理念についても職員間で話し合い作成している。ホームでは家庭的な雰囲気の実現を目指し、会議等で共有し実践に繋げている。	職員個々にホーム理念に沿った年間目標を独自に設定し、日々の支援に取り組んでいる。職員の目標達成度を確認する上で、管理者を交えた振り返りの機会を設けるなど、更なる理念の浸透に繋げる取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染防止の為、面会制限もあり保育園、小中学校との交流は出来なかったが、地域の美容師さんが訪問してカットをして頂いている。検温や体調の確認をして行って頂いた。	コロナ禍の影響により地域と交流する機会が減っている。現状ではホーム広報誌の近隣商店や郵便局、図書館、ホームセンター等への配布、スーパーでの食材調達、運営推進会議への地区民生委員の参加、住民との挨拶や会話を通した交流などの取り組みを通して地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、認知症について説明を行ったりしている。コロナウイルス感染防止の為、外部へ出かけての活動は出来なかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録は配布している。意見、質問にも答えている。職員にも議事録を閲覧してもらっている。	コロナ禍の影響により、運営推進会議を书面会議で実施した場合は意見書を同封し、構成メンバーより意見等を得ている。議題は事前に決めており、会議を通じて離設(施設を離れる行為)する入居者への対応方法について、構成メンバーから質問を受けた際にはホーム内で見守りの徹底を説明するなど、有意義な会議内容となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所福祉課介護保険班の担当の方に、運営推進会議に参加して頂いている。状況報告を行っていく中で、相談させていただいている。今年はコロナウイルス感染の関係で書面にて行う事もあった。	施設長は市の窓口へ各種書類を提出する際に訪問している。行政担当者が運営推進会議に出席しており、助成金等に関する情報提供や重度化した入居者の対応方法への助言等を受けている。また、地域包括支援センターを通じて入居の相談も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げ、勉強会を行ったりして取り組んでいる。勉強会も行っている。日頃から言葉遣い等にも職員同士で気を付けている。	身体拘束委員会は施設長と各ユニット責任者、2名の職員で構成し、職員勉強会も定期的に開催している。身体拘束マニュアルについても作成し、事務所に保管している。スピーチロック(言葉による拘束)などあった場合は施設長や気付いた職員を交え、話し合い助言している。	身体拘束に対する職員意識の徹底にはマニュアルの作成では十分とは言えない。例えば、身体拘束の3要件である「切迫性」「非代替性」「一時性」、身体拘束禁止の具体的な行為11項目、スリーロック(フィジカルロック・スピーチロック・ドラッグロック)などを職員の目に付く場所へ掲示する方法を検討するなど、職員が常に意識できよう工夫することに期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法を職員全員で理解する為に勉強会を行い、DVDを観たり意見交換を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会としては取り上げてないが、成年後見人制度の言葉が出てきた際には説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に数項目契約書の内容説明をし同意を得て捺印を頂いている。契約に関して1時間程かけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設側から利用者様の状況を連絡し、ご家族の要望や意見を聞いたり又、ご家族から状況確認の電話があった場合は状況を伝えたり、本人様と会話して頂いている。	入居者や家族からの相談・要望を聴き取った職員が申し送りノートや介護記録に記入し、ミーティング時に伝えることで職員間での情報共有に繋がっている。苦情窓口については入居契約時に本人及び家族へ説明し、同時に第三者相談窓口についても伝えている。	コロナ禍の影響で、直接面会し家族要望等を把握することが難しい状況と言える。家族とのコミュニケーションツールの導入や事務効率化のためのICTの活用も有効であるため、今後検討することに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の運営職員会で各部署の意見や職員の要望、または施設の設備等の危険箇所の修理などを伝えたりしている。	職員の業務上における相談はユニット主任が窓口になって受け付けており、毎月の職員ミーティングでも意見交換することで運営に反映している。休暇の取得等については事前に話し合い調整している。また、新型コロナウイルスに対する職員の不安を解消すべく、感染予防対策として使い捨てエプロンや除菌剤等を準備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ不足等、やる気にはつながっていないが協力し合いながら業務に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染防止の為、研修が行われていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染防止の為、三施設で毎年行っていた風船バレーや市主催の福祉祭りなども中止となり交流は出来ていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成の際ご本人の意向や、ご家族の要望などを尋ねている。月1会のミーティングで9名の利用者様の状況や、対応の仕方等について話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今年度はコロナウイルス感染防止の為、面会制限があり電話での対応をしている(要望や状況説明等)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に、利用者様の情報を集め、ご本人、ご家族からの話を聞き必要とされている支援を提供する努力している。状態に応じて車椅子や歩行器の準備をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	9名の利用者様それぞれの立場に立って一人ひとりに合ったケアに努めている。又その人の能力に応じた手伝いなどをして頂いている。洗濯物たたみ、野菜の皮むきなど		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に話をして頂いたり、電話で直接話をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染防止の為、居室への入室は出来ない。	入居後に入居者本人から聴き取った馴染みの人や関係者を職員間で情報交換している。尚、聴き取った情報は申し送りノートや介護記録へ転記し、記録として残すことも必要と思われる。現在はコロナ禍の影響で馴染みの関係支援が困難な状況であるが、漁師町へドライブし、車中から馴染みの住民と会話するなど可能な支援は継続している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	見守りや声かけをしながら、一人ひとりが孤立しないように支援している。又一人になられたい時はそっと見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かあれば対応できるように情報収集をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの利用者様に合ったケアを目指している。困難な時(意思疎通が困難な方など)筆談などしている。	職員は日頃の入居者本人との会話の中からその方の思いを尋ねるとともに、家族には電話で意向を聴き取っている。難聴の方など意思表示が難しい入居者には筆談、または職員が話し掛け、表情や態度などの反応を見て本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や前施設への問い合わせなどを行い情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状態について、表情、顔色、バイタル測定、歩行時の足取り、食事摂取量等で把握に努めている。又、本人様に直接聴くこともある。血圧が高い時は再計測を行い、記録にしてスタッフ同士で把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで利用者様の状況や新たに出た情報を共有して、本人様やご家族の意見を基にケアプランを作成している。また、スタッフ間で現状を踏まえた問題点を作成している。	介護計画には入居者本人及び家族の希望を口述通りに記載している。介護計画は6か月で見直しを行っており、実施記録には長期目標・短期目標・サービス内容を記載し、分かりやすく工夫している。入居者毎に担当職員が計画作成担当者に意見を伝え、主任・施設長が中心となって介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や、申し送り帳にて記録してスタッフ間で共有し必要な時は見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスや教材等のマニュアル通りはいかないことが多々ある。その都度、試行錯誤しながら支援にあたっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今はコロナウイルス感染防止の為、例年の様な直接的な交流は出来ない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が受診して頂ける場所は協力依頼をしている。そうでない利用者様のご家族には受診結果を報告しご家族に橋渡しをしている。お一人は往診に来て頂いている。	ホーム提携医は受診のみ対応であるため、職員が同行支援を行っている。受診時には当日のバイタルサインメモ等を持参し医師へ情報を伝えるほか、受診結果や次回受診日について家族に電話で報告している。入居前からのかかりつけ医及び他科受診については家族対応であるが、事情によっては職員も同行しており、家族が受診に同行する場合は家族から報告を受け、介護記録に残している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変、急変の際は直ぐに看護師に相談し見てもらっている。必要な時は受診をし、その後ご家族に報告している。看護師配属によりより綿密な相談が出来る様になった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナウイルス感染防止の為、面会はできていないが情報収集は電話などで行った。ご家族の協力もあった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員、ご家族と十分に話し合い状況が変化した際には家族と連絡が取れるよう協力して頂いている。	看取りについて、医療行為が発生した時点でホームでの対応が難しいことを重要事項説明書に基づいて入居相談時に家族に説明し、同意を得ている。看取り時期の判断は医師が行い、その時点で家族の意思を再確認している。退去後の受け入れ先については近隣の特別養護老人ホーム等の検討を視野に協力体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ノロウイルス、ESBLなどの感染症についての勉強会や、BLSやAEDの使い方について定期的に学ぶようにしている。消防署の協力も得ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練に全員参加し避難経路や避難場所、消火器の設置個所、操作の仕方を確認している。夜間時は特にガスを点けたままで介護業務をしないようにしている。必ず消してからその場を離れている。	年2回避難訓練を実施しており、職員は水消火器を使用した訓練を行っている。入居者の緊急持ち出し一覧表は入居者の全身写真・処方箋・介護保険情報・かかりつけ医・看護サマリー・診療情報提供書を綴じ込み作成している。地区消防団に避難訓練への参加を依頼しているが、実現には至っていない。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには注意をし、強い口調や命令口調にならないように気をつけている。	ホームでは定期的に接遇・マナー研修を実施し、職員の接遇意識を高めている。職員は居室へ入室する際にノック・声掛けを行い、各支援場面ではプライバシーに配慮した対応に努めている。また、不要になった個人情報記載のメモ類等は細かく裁断し破棄している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いや希望を表した際にじっくり聞き、記録に残して情報を共有するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設のスケジュールはあるが、本人様の希望に沿って支援している。また、体調などに合わせて一人ひとりのペースで過ごして頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面やひげそりの支援など、その人らしい身だしなみが出来る様に、支援している。ご家族に衣類の事など協力して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを確認しながらメニューの要望を聞いたり、季節のメニューを提供したりしている。野菜の皮むきなどをして頂いている。	ホームでは調理担当者を職員の勤務表で決めている。献立は当日の在庫食材を見て決めており、食材は近隣スーパーでの購入やホーム菜園で収穫した季節の野菜を使用している。皮むきや台拭き、お盆のセッティングなど入居者ができる範囲で準備を手伝い、楽しみながら食事を摂っている。入居者の嗜好調査やアレルギーについては入居時に本人及び家族より聴き取っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は10時と15時がお茶の時間に、その他飲みたい時にお茶などを出している。また、体調に配慮して水分を摂って頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が側に付いて義歯洗浄、歯磨きを見守りながら行っている。定期的に道具の消毒や義歯洗浄剤を入れて清潔保持に努めている。歯ブラシの交換(買い換え)も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿排便チェック表を利用し、それぞれの利用者様の間隔を把握し、トイレ誘導を行っている。オムツからパンツの使用に向けて支援している。	ホームの方針により、職員は排泄チェック表に基づきながら入居者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。尿取りパットやリハビリパンツ、オムツ等の使用状況についてはミーティング時に検討し、サイズ等を変更する場合は家族にも伝えている。失禁時等の対応では声掛けに配慮し、さりげない誘導に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の食材を使ったり、定期的に体操等をして体を動かして頂いたり、便秘気味の利用者様には水分を摂って頂いている。また、病院受診の際にドクターへ相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に午後が入浴の時間なので応じて頂いている。入浴は本人様の体調や気分に応じて配慮している。ファンヒーターを使い浴室内の温度調整も行っている。	日曜日以外、ホームでは毎日入浴することが可能である。脱衣場と浴室の温度差(ヒートショック)に関して冷暖房機器で調整しており、異性介助に拒否反応がある入居者には職員を交代し対応している。入浴順は日々の入浴をローテーションすることで対応し、好みの湯温にも配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お部屋の温度調整に気を配り、休むのに丁度いい温度にするように気がけている。体調に合わせて寝具も調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の都度、内服の変更があれば説明し、申し送りや介護記録用紙に記載している。症状の変化についても随時記録している。個々の内服薬をファイルして確認している。		
48		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の事前調査で、ある程度利用者様の情報を得ている。出来る事(洗濯物たみ、掃除等々)は、本人様の力を発揮して頂いている。新聞や読書をされたり、ゲームや体操等をされたりしている。また、好きなコーヒーを飲まれる方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染防止対策の為面会出来ない事が多く、家族との外出や地域の方とのふれ合いも出来なかったが、ドライブには数回行くことができた。	コロナ禍でホーム行事としてのドライブや外食等の外出支援は困難となっているが、職員は好天時に入居者とともにホーム周囲の菜園や花壇を散歩したり、日当たりの良い場所で日光浴を行っている。また、ホーム近隣へドライブする機会を設け、車中から景色を眺めることができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいものがある時は本人様と買い物に行ったり代行して買ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人様の希望で掛けたり、ご家族からの電話の際にはお話しして頂いている。手紙のやり取りについてもサポートしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や果物等を飾ったり、スタッフ制作の毎月の季節にあった貼り絵を飾って利用利用者様も楽しんでおられる、又、雛飾りや鯉のぼり、七夕飾り等その時期に合った物を飾っている。	ホーム共用空間のテレビ横にソファを置き、地元の様子を放映した録画番組を気の合う入居者同士で視聴するなど和やかな雰囲気である。ホームでは陽射し対策の一環として平戸市のコンクールに参加し、ゴーヤを植えた緑のカーテンづくりで優秀賞を受賞するなど、楽しみながら過ごしやすい共用空間づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いの居室への行き来はされていない。物盗られ妄想の関係がある為。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自宅で使用されていたものを持参されているので、それに合わせたお部屋作りを心掛けている。	居室には入居者の使い慣れた時計や布団、化粧品などの持ち込みや、壁には家族写真等が飾られており、住み慣れた家庭的な雰囲気を再現できるよう努めている。事故防止等の目的で家具類を移動する場合は家族と話し合いながら行っている。居室へ持ち込みできない物品については、入居契約時に家族へ説明している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様に合わせて本人様やご家族、スタッフと話し合いながら、安全に配慮しながら対応している。		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 式番館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で理念などを唱和している。また、式番館独自の理念も作り唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルス感染防止の為、面会制限があり、例年交流している保育園や小中学校等の皆さんのとの交流は出来なかったが、地域の散髪屋さんを訪ねてカットしてもらっている。その際は検温や消毒をしてもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際、認知症について説明を行ったりしている。コロナウィルス感染防止の為、外部へ出かけての活動は出来なかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の方から意見を頂いており、検討事項などについて進展状況を次回開催時に報告している。職員にも議事録を閲覧してもらえようになっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所福祉課介護保険班の担当の方に、運営推進会議に参加して頂いている。状況報告を行って行く中で、相談させていただいている。今年はコロナウィルス感染の関係で書面にて行う事もあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げ、定期的に委員会や勉強会を行い取り組んでいる。また、言葉の拘束等にも気をつけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法を職員全員で理解する為に勉強会を行い、DVDを観たり意見交換を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会としては取り上げてないが、成年後見人制度の言葉が出てきた際には説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に数項目契約書の内容説明をし同意を得て捺印を頂いている。契約に関して1時間程かけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方より要望や質問を受ける事がある。何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意し、意見として聞いた内容についてはミーティング等で話し合い、反映させている。また、ご家族からの状況確認の電話連絡もあり、その際は状況を伝えたり本人様と会話して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月二回の運営職員会議で各部署から意見を出し合ったり、朝礼やミーティングの際も意見や提案を聞いている。反映出来ることは順次行ったり、話合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ不足等で、職場環境や・条件の整備は充分ではないが、改善出来る点は少しずつでも改善しながら、協力し合いながら業務に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染防止の為、外部研修が行われていない。施設内勉強会は毎月実施している。個人の資格取得の際は休みの日などを配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルス感染防止の為、三施設で毎年行っていた風船バレーや市主催の福祉祭りなども中止となり交流は出来ていない。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の情報提供を基にミーティングを行い、サービス内容について話し合っている。また何かあれば職員同士で情報を共有し本人様の安心を確保するよう努めている。場合によってはご家族にも協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族がこれまで苦勞してこられた事など傾聴し、ご家族の意向などを聞き出せるように話を聴く機会を持つようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に、利用者様の情報を集め、ご本人、ご家族からの話を聞き必要とされている支援を提供する努力している。状態に応じて車椅子や歩行器の準備をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	9名の利用者様それぞれの立場に立って一人ひとりに合ったケアに努めている。又その人の能力に応じた手伝いなどをして頂いている。利用者様に担当者を決め、毎月のミーティング等で話し合うようになっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様が生活していく上で不安な事や不満を聞いた際、面会や電話時などにご家族に伝えて、本人様と橋渡しをして少しでも解消できるようにしている。また、病院受診の付き添いをしてもらったり、難しい場合は受診結果の情報をご家族に伝えて、共に本人様を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルス感染防止の為、馴染みの人との交流や場所に行くのが難しくなっている。制限内で、関係が途切れないように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	見守りや声かけをしながら、一人ひとりが孤立しないように支援している。又一人になられたい時はそっと見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かあれば対応できるように情報収集をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの利用者様に合ったケアを目指している。困難な時(意思疎通が困難な方など)筆談やご家族に協力を得ている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や前施設からの情報提供書や前施設への問い合わせなどを行い情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状態について、表情、顔色、バイタル測定、歩行時の足取り、食事摂取量等で把握に努めている。又、本人様に直接聴くこともある。血圧が高い時は再計測を行い、記録にしてスタッフ同士で把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで利用者様の状況や新たに出た情報を共有して、本人様やご家族の意見を基にケアプランを作成している。また、スタッフ間で現状を踏まえた問題点を作成している。まだ反映が充分ではないので改善が必要。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や、申し送り帳にて記録してスタッフ間で共有し必要な時は見直しにつなげている。見直しが追いついていない部分があるので努めていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスや教材等のマニュアル通りはいかないことが多々ある。その都度、試行錯誤しながら支援にあたっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今はコロナウイルス感染防止の為、例年の様な直接的な交流は出来ない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が受診して頂ける場所は協力依頼をしている。そうでない利用者様のご家族には受診結果を報告しご家族に橋渡しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変、急変の際は直ぐに看護師に相談し見てもらっている。必要な時は受診をし、その後ご家族に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナウイルス感染防止の為、面会はできていないが情報収集は洗濯物交換の際や電話などで行った。ご家族の協力もあった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員、ご家族と十分に話し合い状況が変化した際には家族と連絡が取れるよう協力して頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ノロウイルス、ESBLなどの感染症についての勉強会や、BLSやAEDの使い方について定期的に学ぶようにしている。消防署の協力も得ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練に全員参加し避難経路や避難場所、消火器の設置個所、操作の仕方を確認している。夜勤時は特にガスを点けたままで介護業務をしないようにしている。必ず消してからその場を離れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには注意をし、強い口調や命令口調にならないように気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いや希望を表した際に傾聴し、記録に残して情報を共有するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設のスケジュールはあるが、本人様の希望に沿って支援している。また、体調などに合わせて一人ひとりのペースで過ごして頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面やひげそりの支援など、その人らしい身だしなみが出来る様に、支援している。ご家族に衣類の事など協力して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを確認しながらメニューの要望を聞いたり、季節のメニューを提供したりしている。野菜の皮むきなどをして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は10時と15時がお茶の時間に、その他飲みたい時にお茶などを出している。また、体調に配慮して水分を摂って頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が側に付いて義歯洗浄、歯磨きを見守りながら行っている。定期的に道具の消毒や義歯洗浄剤を入れて清潔保持に努めている。歯ブラシの交換(買い換え)も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿排便チェック表を利用し、それぞれの利用者様の間隔を把握し、トイレでの排泄誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の食材を使ったり、定期的に体操等をして体を動かして頂いたり、便秘気味の利用者様には水分を摂って頂いている。また、病院受診の際にドクターへ相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に午後が入浴の時間なので応じて頂いている。入浴は本人様の体調や気分に応じて配慮している。冷暖房を使い浴室内の温度調整も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お部屋の温度調節に気を配り、睡眠に丁度良い温度にするように気掛けている。室温、体調に温度に合わせて寝具も調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診の都度、内服の変更等あれば説明し、申し送りや介護記録用紙に記載している。症状の変化についても随時記載している。個々の内服薬表をファイルして確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の事前調査である程度利用者様の情報を得ている。出来る事(洗濯物たたみ、掃除等々)は、本人様の力を発揮して頂いてる。新聞や本を読まれたり、ゲームや体操等をされたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクレーションの日を設け、散歩やドライブ等を行っている。コロナ感染対策の為外出は制限している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいものがある時は、本人様と買い物に行ったり代行して買ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人様の希望で掛けたり、ご家族からの電話の際にはお話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって飾りなどを変え、季節感を出している。室温なども調整し、心地よく過ごせるよう工夫している。清掃も毎日している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりテレビを見たり新聞を読まれたり、ソファで気の合う利用者様同士で過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自宅で利用されていたものを持参されているので、それに合わせたお部屋作りを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様に合わせて本人様やご家族、スタッフと話し合いながら、安全に配慮しながら対応している。		